

地域林政対談 イン御船

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

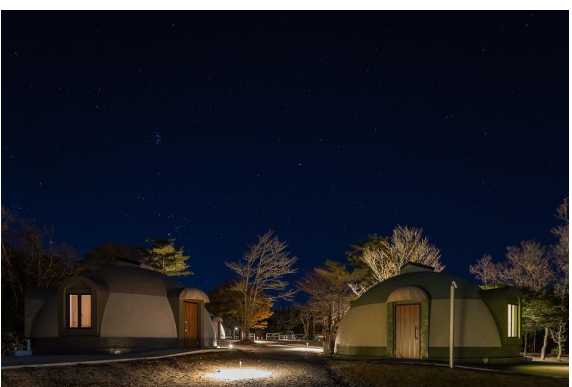
第二十五弾は、御船町の藤木正幸町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



御船恐竜博物館



吉無田「緑の村」



吉無田「星の森ヴィラ」

吉無田高原の森林を守り、活用していく「御船町長」

12月16日に九州自動車道延岡線の上野吉無田インターチェンジが開通し、高速に乗れば、九州各県の県庁所在地から無信号で吉無田高原に来ることができるようになる。

御船町に来てもらい、恐竜だけではなく、吉無田高原の自然環境を楽しんでもらいたいと思っている。熊本地震で先人の知恵を学んだ。防災キャンプ場として、沢の水を葉っぱで浄化したり、湧き水をくみに行ったり、お風呂を沸かしたり、火が消えないように石積みを作ったり、そういった何も無いことから学ぶということとを、吉無田高原のキャンプ場で行っていきたいと思っている。また、吉無田高原の自然を利用するだけではなく、希少生物や希少植物がある自然環境を守っていかねばならない。地域の方々が中心となって、山間部だけではなく平坦部の方も一緒に考えていきたい。マウンテンバイクの大会やトレイルランを吉無田高原の国有林も含めた森林の中でできないかとも考えている。

吉無田高原の巨木の周りを歩くと、スプリングの上を歩いているようなふわふわ感がある。



藤木 正幸 御船町長

今年の豪雨で、吉無田高原で1時間当たり120ミリの雨が降ったが大きな被害は無かった。ふわふわの土壌が水を吸収したのだと思う。私たちの先祖は、水が少ない御船町に水を作るために、吉無田高原に50年かけて260万本の木を植えていただいた。それが今あの国有林の大きな木になっている。吉無田高原の水は御船町の町民の4割の方が飲料水として、5割の方が田植え用の水として使っている。先人が植えてくれた吉無田高原の森林を守って、そして活用していかなければならない。



吉無田水源

【国有林の活用について】

御船町長 吉無田高原の国有林の活用に向けて、どういった可能性があるか。また、他の地域では国有林の活用がどのように行われているのかお聞きしたい。

熊本森林管理署長 国有林の活用の方法としては貸付けや売却があるが、まずはどういう構想を持たれているのかを伺ってまいりたい。

九州森林管理局長 例えば、登山道であれば、借りてもらって管理を設置主体でやってもらう。施設を作りたいということであれば、施設用地として買ってもらうということもある。また、宮崎県の五ヶ瀬ハイランドスキー場の様に、使用許可で国有林でスキーをやっている例もある。さらに、菊池溪谷ではレクリエーションの森として指定して地元で協議会を設置して管理運営を行っている。協定を結んで地元の方が森づくりや管理をするやり方もある。山のままトレイルランをするのか、施設や駐車場を作るのか、使う程度に応じてご相談をいただければと思う。

町長 国有林の中で恐竜の化石の発掘調査を行えないかと考えており、今後相談したい。



地域生活を支え続けている吉無田水源（国有林）

【森林環境譲与税（仮称）の用途について】

御船町井上係長 森林環境譲与税を活用して、所有者の意向確認のためのアンケート調査等を実施していきたいと考えているが、境界の問題がある。所有者が県外であったり、相続しても登記がされ

ていなかったりすることがある。実際に整備を進めていくのは相当難しいのではないかと考えている。

町長 御船町は地籍調査が進んでいない状況。熊本地震を受けて、土地の整理等を進めているが、なかなか対応できていない状況。土地の利用をしようとしても、所有者が分からず苦労している。これを機に森林の境界の明確化が進めばよいと考えている。

局長 林地台帳の整備を市町村でやっていたいただいている。少しずつ精度を上げていってもらえればと考えている。森林経営管理制度における所有者の意向調査についても、やりやすいところ、あるいは急ぐところに的を絞ってやっていくことが現実的であると思っている。

【有害鳥獣対策について】

町長 有害鳥獣対策については、御船町でも電気柵の設置などの対策を進めているが、シカやイノシシの被害は増える一方である。罾による捕獲については、猟犬がかかってしまう懸念がある。

係長 狩猟をする方が減っていく中で、罾による捕獲も必要になってくると考えている。くくり罾を設置するエリアと、猟犬による狩猟をするエリアを分けてやることもあるのではないかとと思う。

局長 有害鳥獣対策については、根本的には頭数を減らさないといけない。森林管理者と被害対策についての協定を締結することで、くくり罾の無償貸与や入林手続きの簡素化などができるので、ご検討いただきたい。



シカが樹皮を食べている様子（国有林）

地域林政対談 イン 御船

平成30年12月6日(木) 10:00~12:00

御船町役場 会議室

出席者(敬称略)

○御船町

藤木 正幸 町長

藤野 浩之 農業振興課長

井上 辰弥 農林企画係長

○熊本県上益城地域振興局

前田 健彦 林務課長

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行 局長

森 勇二 熊本森林管理署長

勝沼 太志 企画調整課長

